

調査の目的・内容

- 令和3年7月に取りまとめられた「大学入試のあり方に関する検討会議 提言」において、実証的なデータやエビデンスに基づく政策決定の重要性が指摘されており、大学入学者選抜の多様化・複雑化が進む中で、国としての確な現状分析に基づいて検討を行うためにも、国内の全大学・短期大学が現在実施している入学者選抜の状況について、最新の動向を網羅的に把握する必要がある。
- 各大学が実施する大学入学者選抜について、選抜区分ごとに詳細を把握し、設置主体別等の分析を行う。
- 既に実施した大学入学者選抜の選抜区分基本情報、大学入学共通テストの利用状況、個別学力検査の実施状況、英語資格・検定試験の活用状況、記述式問題等の出題状況等を調査。

調査の実施時期・方法

- 令和4年7月14日～令和4年8月31日の期間に各大学に回答を依頼・回収。
- eメールによる調査票の発送及び民間委託業者による回答票の回収・集計により実施。
(遅れて回答のあった大学等も含め、令和4年11月29日までの回収分を集計)

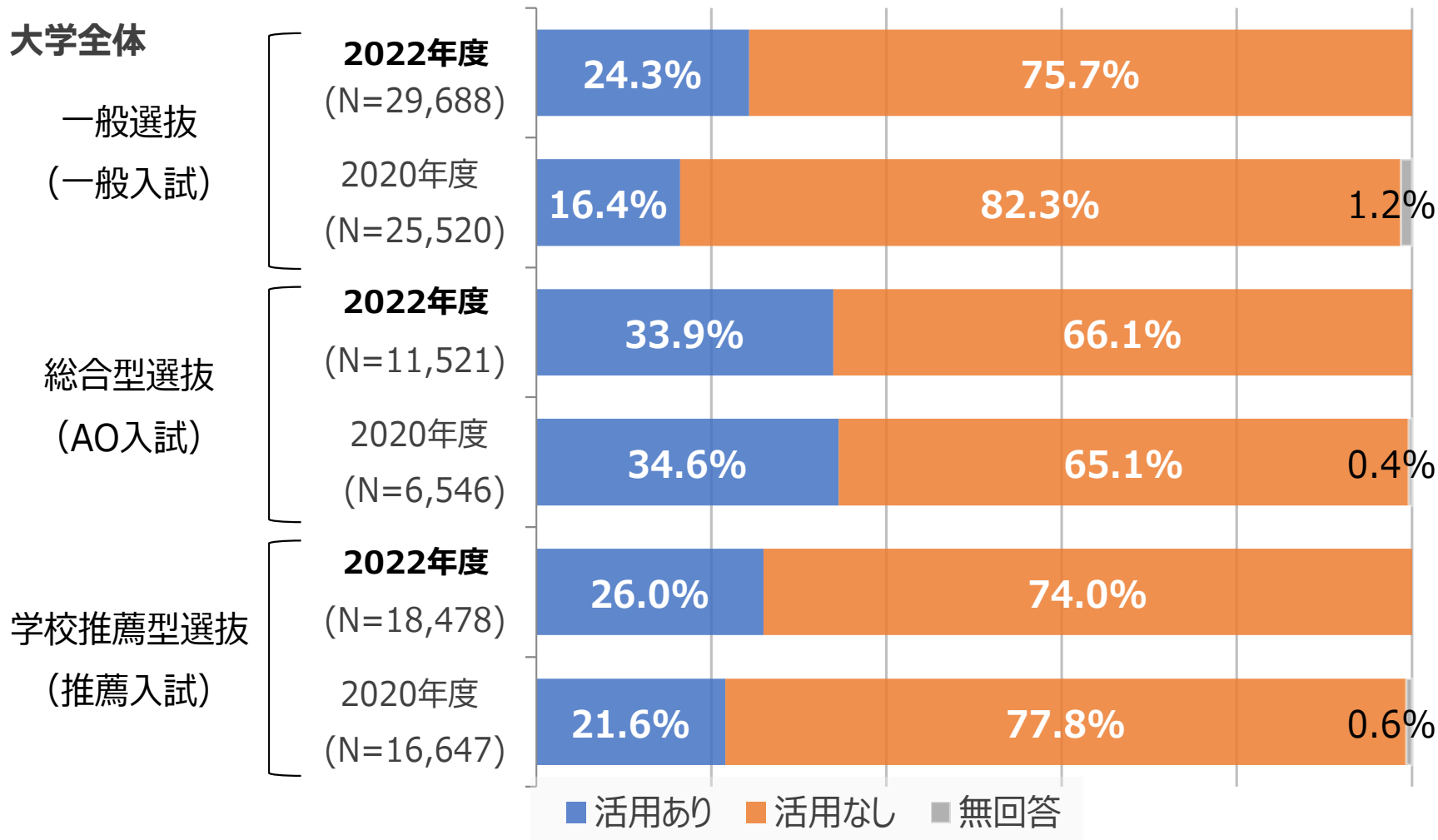
調査の対象

- 国内の全大学及び短期大学（大学院大学と学生募集停止の大学・短期大学を除いた、国立大学・公立大学・私立大学・公立短期大学・私立短期大学の計1,071校）
- 回収数：1,071校（76,113選抜区分）、回収率：100%

令和4年度大学入学者選抜実態調査における英語関連の主な調査結果について

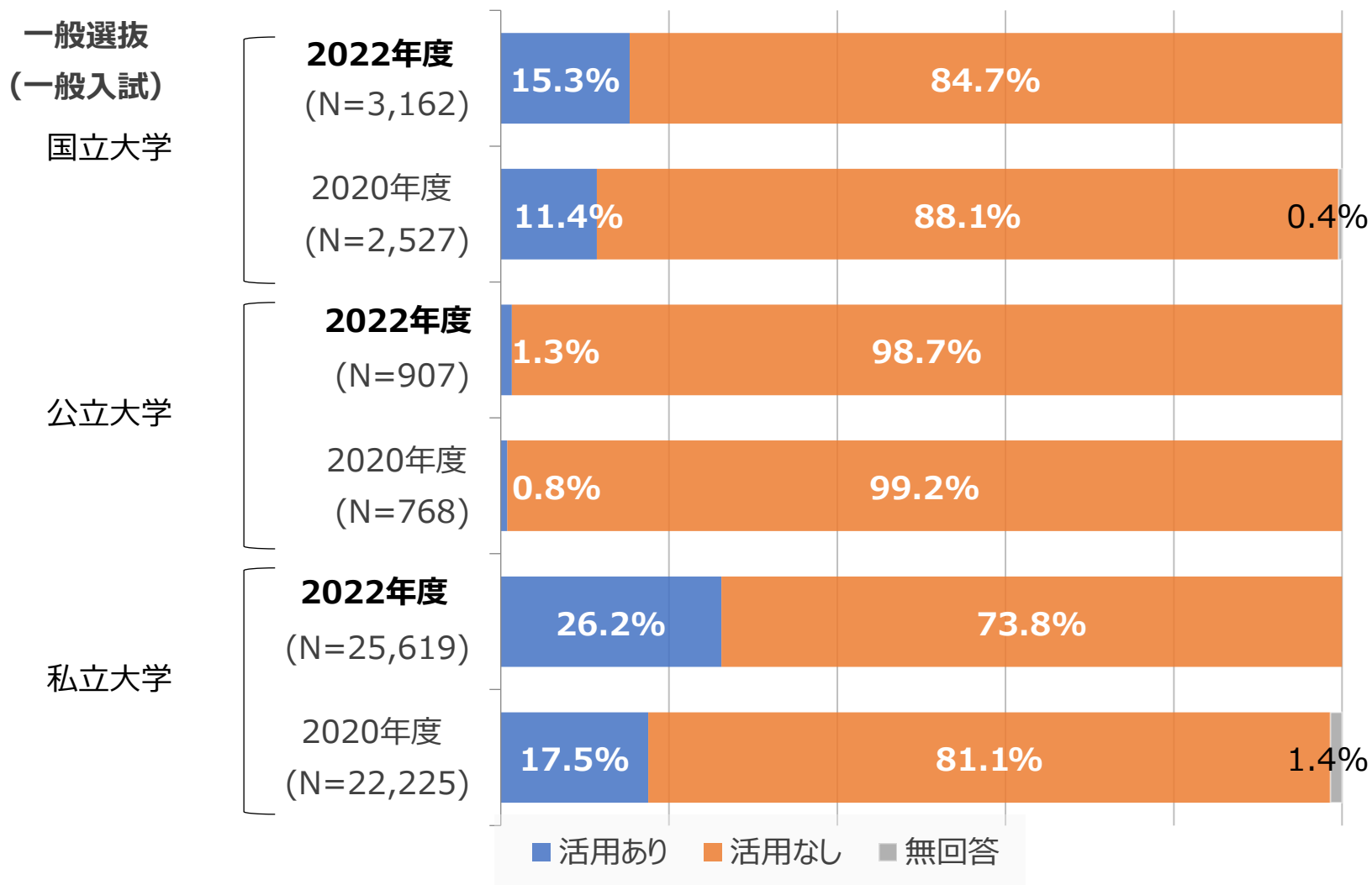
● 英語資格・検定試験の活用

○ 英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分の割合は、一般選抜及び学校推薦型選抜で増加。
(総合型選抜はほぼ横ばい)

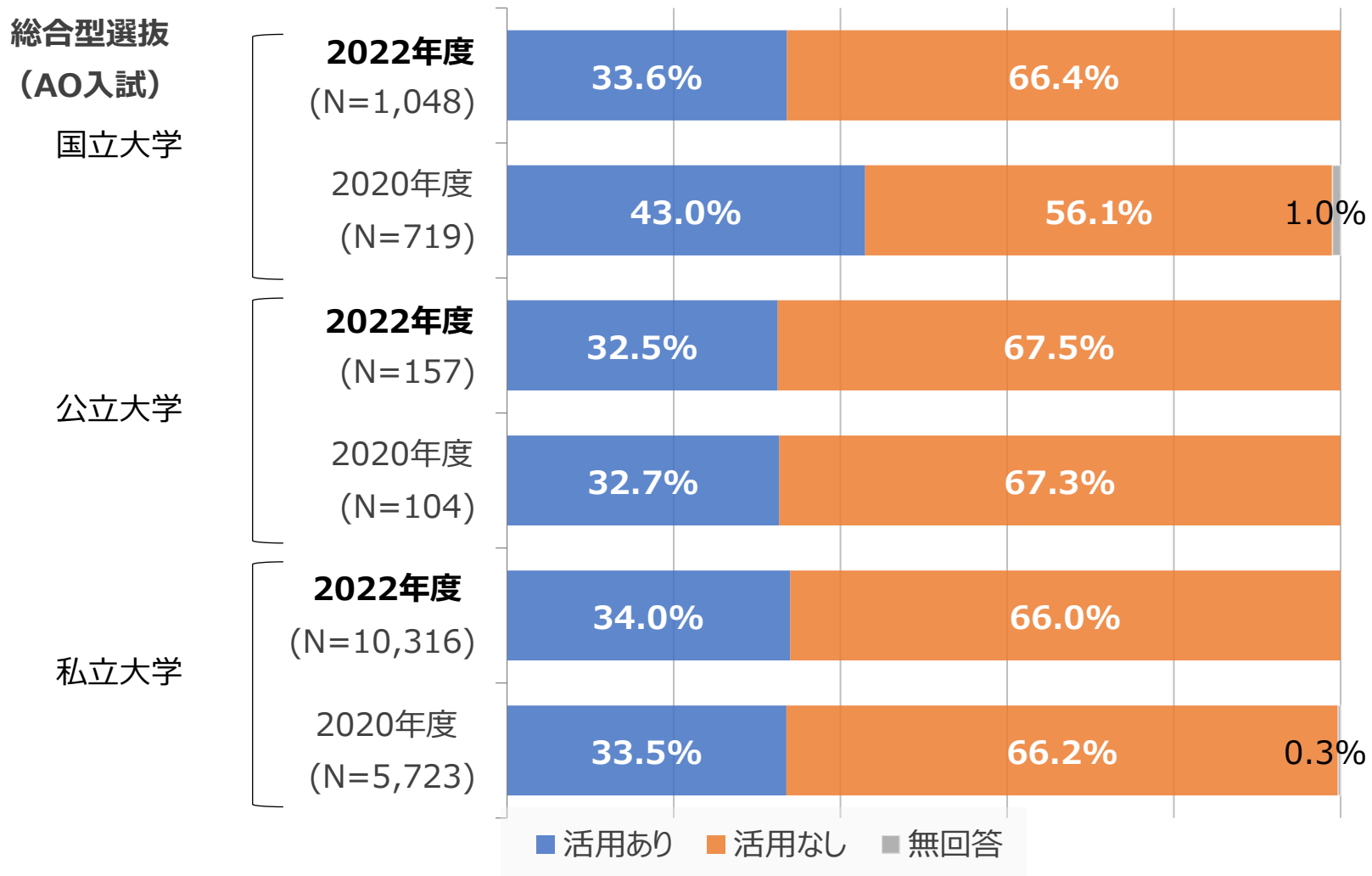


※nは、国立大学・公立大学・私立大学において一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜を実施する選抜区分数

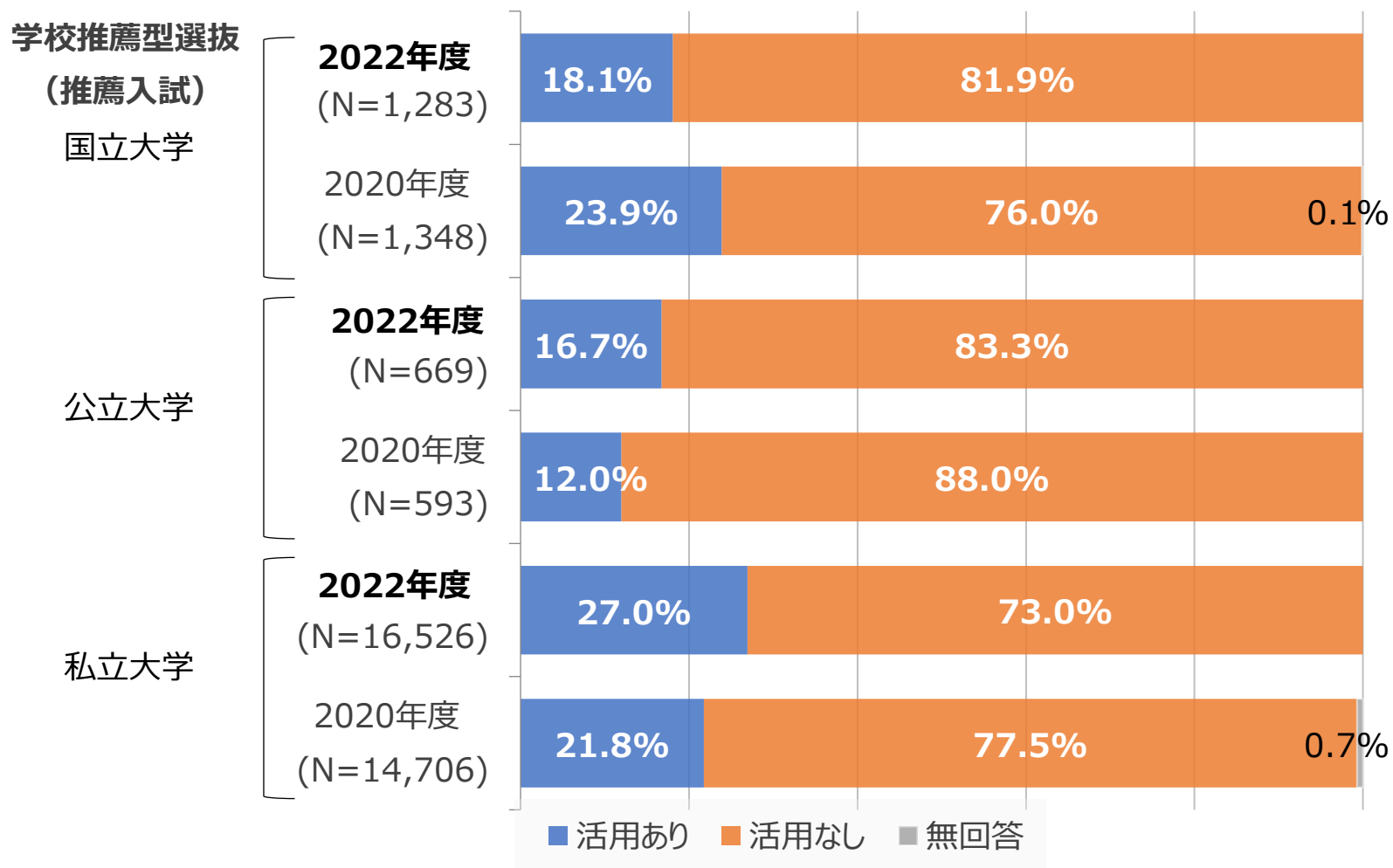
(参考) 英語資格・検定試験の活用【選抜方法別・国公私別】①一般選抜（一般入試）



※nは、国立大学・公立大学・私立大学において一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜を実施する選抜区分数



※nは、国立大学・公立大学・私立大学において一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜を実施する選抜区分数



※nは、国立大学・公立大学・私立大学において一般選抜・総合型選抜・学校推薦型選抜を実施する選抜区分数